

2025 年度 環境報告書



二九精密機械工業株式会社

ご挨拶

世界経済は回復の動きを見せつつあるものの、地政学的リスクの高まりや資源・エネルギー価格の変動など、不確実性の高い状況が続いております。特に中東地域を含む国際情勢の緊張は、エネルギー供給や経済活動に影響を及ぼしています。

一方で、気候変動問題への対応は国際的に一層重要性を増しており、カーボンニュートラルの実現に向けた取り組みや、再生可能エネルギーの活用、資源循環の高度化など、企業に求められる役割はますます拡大しています。

また、ESG や SDGs の観点からも、持続可能な経営への取り組みが不可欠となっています。

当社はこうした社会的要請を踏まえ、環境との調和を重視した事業活動を推進し、継続的な改善に取り組んでまいります。

ここに当社の 2025 年度の環境改善活動状況及び結果を報告いたします。

2026 年 6 月 5 日

二九精密機械工業株式会社
代表取締役社長 二九 直晃

2025年度 環境方針

基本理念

二九精密機械工業株式会社は、地球環境保全を人類共通の最重要課題の一つであることを認識し、全組織を挙げ事業活動を通じて、地球環境と社会の持続的発展に貢献する。

方 針

二九精密機械工業株式会社は、半導体製造装置・分析機器・医療検査機器等の精密機械部品の製造・販売に係る全ての活動、製品及びサービスの環境影響を低減するために、環境改善の目的及び目標を定め継続的に活動を実行し改善向上を図る。

1. 当社は環境側面に関する法規制並びに同意したその他要求事項を順守する。
2. 当社の活動、製品及びサービスに係る環境影響のうち、以下の項目に配慮し環境にやさしい企業活動を行う。
 - a. 省資源・省エネルギーに努め環境負荷を低減する。
 - b. 廃棄物の排出抑制と再利用に努める。
 - c. 製品含有化学物質管理における体制維持及び法規制の順守・顧客の要求に対応していく。
 - d. 有害化学物質を徹底管理し環境汚染防止に努める。
 - e. 啓発活動（工場内・周辺の美化活動）及び環境イベント（社会貢献活動含む）を実施する。
3. 一人ひとりが環境負荷低減活動を積極的に実践出来るように「環境方針」を定め、この環境方針を全従業員に周知する。また、社外へ環境方針を公開し、理解と協力を得る。
4. 地域の環境改善活動に積極的に参画する。

上記の方針達成のために、環境目標及び達成計画を設定し、定期的に見直し環境マネジメントシステムを推進する。

適 用 範 囲

・適用するサイト

社名 : 二九精密機械工業株式会社
住所 : [本社] 京都府京都市南区唐橋経田町 33-3
[京都工場・R&Dセンター] 京都府京都市南区吉祥院内河原町 20-1
[八木工場] 京都府南丹市八木町大藪下河原田 8-1
[東京営業所] 東京都三鷹市上連雀 1-1-3 三鷹明星パレス 3階

・適用する事業

精密機械(半導体プロセスガス流量制御装置、工業用分析装置、医療用分析装置、自動車排気ガス分析装置、ポンプ、メガネ、その他)部品の設計・開発及び製造

・適用する要員

当社社員及び出向社員、常駐の外部委託者

制定日 2023年 4月 1日

改訂日 2025年 3月 15日

二九精密機械工業株式会社

代表取締役社長（最高責任者） 二九 直晃

会社概要

①会社名

二九精密機械工業株式会社

②事業所所在地

- ・本社：京都府京都市南区唐橋経田町 33-3
- ・京都工場・R&D センター：京都府京都市南区吉祥院内河原町 20-1
- ・八木工場：京都府南丹市八木町大藪下河原田 8-1
- ・東京営業所：東京都三鷹市上連雀 1-1-3 三鷹明星パレス 3 階
- ・大阪研究室：大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
関西大学イノベーション創生センター内

③事業内容

- ・メディカル・分析・産業機器・一般工業製品のコア機構部の開発、設計から製造
- ・精密機械部品切削加工
(各種複合切削加工・小径シームレスパイプの製作・高速微細加工・ハステロイ、インコネル、チタン、SUS等、難削材の加工)
- ・小径 β チタン合金パイプの製造/販売/提案
- ・眼鏡ゆるみ止めネジ等の販売
- ・眼鏡用線材

④代表取締役会長 二九 宏和

代表取締役社長 二九 直晃

⑤資本金 9,000 万円

⑥従業員数 約 270 名

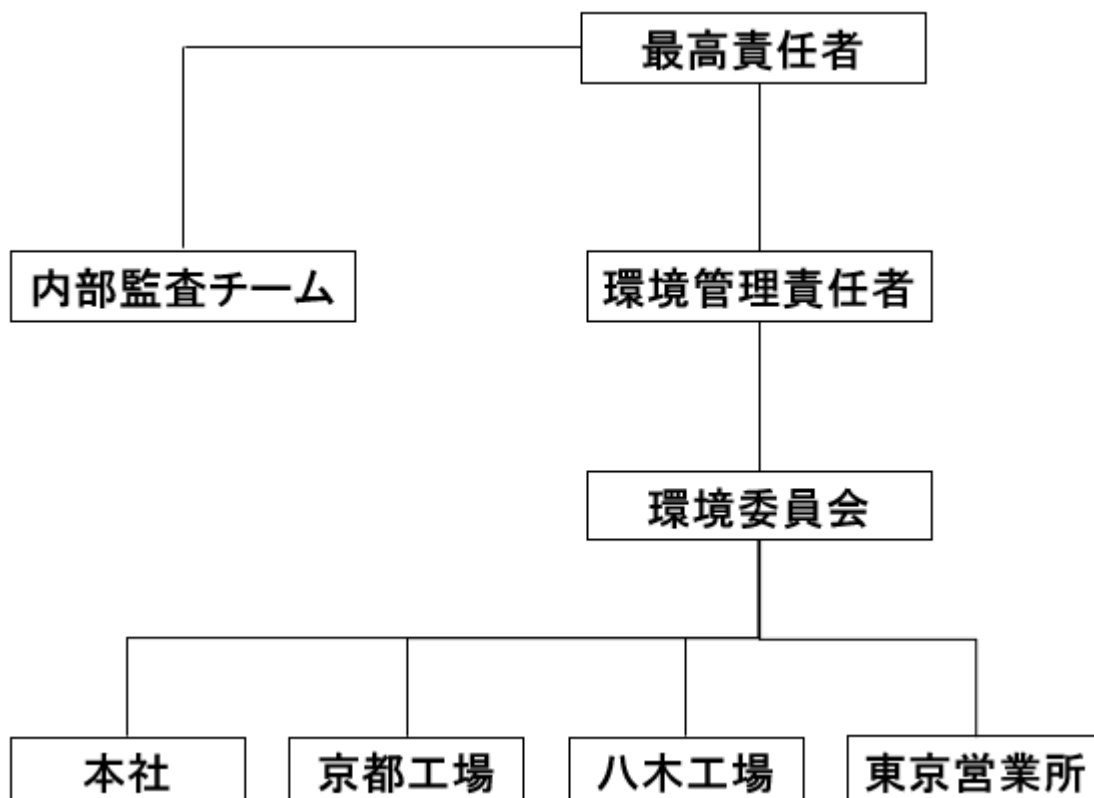
⑦沿革

- | | | |
|--------|------|---|
| 1917 年 | 3 月 | 京都市下京区内で個人開業 |
| 1975 年 | 9 月 | 二九精密機械工業(株) 商号変更・資本金 4 5 0 万円に増資 |
| 1986 年 | 5 月 | 八木工場完成 |
| 1987 年 | 1 月 | 資本金 3,000 万円に増資 |
| 1998 年 | 6 月 | 品質保証の国際規格 ISO9002(1994 年版)認証取得(八木工場) |
| 2003 年 | 2 月 | 品質マネジメントシステム国際規格 ISO9001(2000 年版)
認証取得(全社) |
| 2004 年 | 12 月 | KES 環境マネジメントシステム(KES ステップ [®] 2)認証取得(八木工場) |
| 2009 年 | 4 月 | 前社長 二九宏和が代表取締役会長に就任
前副社長 二九良三が代表取締役社長に就任 |
| 2009 年 | 6 月 | 京大桂ベンチャープラザ [®] 内に研究室開設 |
| 2009 年 | 12 月 | ISO9001(2008 年度版)認証取得 |
| 2010 年 | 5 月 | 本社新築移転 |
| 2012 年 | 12 月 | 京都工場 R & D センター竣工 |

- 2013年 7月 ISO14001：2004 認証取得 認証範囲を全事業所とする
- 2014年 9月 ISO13485：2003 認証取得 全社認証範囲
- 2017年 3月 創業 100 周年を迎える
- 2018年 12月 東京営業所を三鷹駅前に移転
- 2019年 1月 ISO-13485：2016 年度版に移行。
合わせて東京営業所を追加登録
- 2019年 12月 資本金 6750 万円に増資する
- 2020年 9月 八木第二工場完成、クリーンルーム新設
- 2023年 6月 二九良三社長が病気のため急逝 前常務 二九直晃が代表取締役社長に就任
- 2023年 10月 資本金 9000 万円に増資する
- 2024年 2月 東京営業所 東京都三鷹市上連雀 1-1-3 三鷹明星パレス 3 階に移転
- 2024年 3月 認証機関を NSF-ISR から Equal Assurance に変更

以上

1. 環境マネジメント組織図



2. 環境マネジメントシステム(ISO14001)の認証取得内容

認証機関：Equal Assurance（本部：オーストラリア）

初回登録日：2023年7月31日(NSF-ISRより変更)

登録番号：TAQQ01-CREE01（認証承認日：2024年3月31日）

3. 2025年度 環境改善活動の内容と実績

各事業所の環境改善目標及び実績結果は下記のとおりです

《本社》

環境改善計画目標	具体的施策	目標値	実績値	目標達成率(%)	評価
1「省資源」 電力使用量の削減 【目標値】2024年度年間 実績比3%削減 A評価：3%以上 B評価：1~3%未満の削減 C評価：前年から増加	1.エアコン設定温度の徹底 2.トイレ便座の節電 3.残業時間削減他	50,051kwh	49,896kwh	-0.3%	B
2「啓発活動Ⅰ」 社屋及び周辺の美化活動 年4回以上実施	1.社屋内外の清掃を実施	4回以上	4回	100.0%	A

《京都工場》

環境改善計画目標	具体的施策	目標値	実績値	目標達成率(%)	評価
1「省資源」 電力使用量の削減 【目標値】2024年度年間実 績比2%削減 A評価：2%以上 B評価：0~2%未満の削減 C評価：前年から増加	1. エアコン設定温度の徹底及び 運転状態の適正化 2. コンプレッサー等、休日の未 使用設備の停止 3. エアブローの効率化による コンプレッサー電力の削減	352,120 Kw/h	343,250 Kw/h	-2.5%	A
2「啓発活動Ⅰ」 工場内・周辺の美化活動 (毎週1回実施/作業環境改 善)	1.毎週明け稼働日に工場内及び 工場隣接歩道の清掃活動実施	52回	52回	100.0%	A

《八木工場》

環境改善計画目標	具体的施策	目標値	実績値	目標達成率 (%)	評価
1-1「化学物質」 第一工場 北側洗浄室 化学物質(ジクロロメタン)使用量の削減 2023年度実績における洗浄100回あたりのジクロロメタン使用量設備平均値の1%削減	1.洗浄作業ルールの徹底 2.作業者への啓発活動 ・環境負荷要因に関する数値状況のフィードバック ・ポスター作製/掲示による注意喚起や危険性の明視化	119.40 ℓ	129.27 ℓ	92.4%	B
1-2「化学物質」 第一工場 鏡面室 化学物質(ジクロロメタン)使用量の削減 2023年度実績における洗浄100回あたりのジクロロメタン使用量設備平均値の1%削減	1.洗浄作業ルールの徹底 2.作業者への啓発活動 ・環境負荷要因に関する数値状況のフィードバック ・ポスター作製/掲示による注意喚起や危険性の明視化	185.16 ℓ	217.18 ℓ	85.0%	B
1-3「化学物質」 第二工場 洗浄室 化学物質(ジクロロメタン)使用量の削減 2022年度4～1月実績における洗浄100回あたりのジクロロメタン使用量設備平均値の1%削減	1.洗浄作業ルールの徹底 2.作業者への啓発活動 ・環境負荷要因に関する数値状況のフィードバック ・ポスター作製/掲示による注意喚起や危険性の明視化	249.24 ℓ	333.73 ℓ	74.7%	C
2「啓発活動Ⅰ」 工場内外の全員清掃実施 (毎月1回実施 / 作業環境改善)	1.工場内全員清掃月1回 2.年2回環境啓発活動(地域のごみ、カン拾い)	12回	12回	100.0%	A

《東京営業所》

環境改善計画目標	具体的施策	目標値	実績値	目標達成率 (%)	評価
1「省資源」 電力使用量の削減 前年同月比1%削減→目標見直し 2025年8月度より前年同月より+7%以下に抑える	1.部屋に応じた適正温度の設定	10391kwh	10901kwh	104.2%	A
1「啓発活動Ⅰ」 事務所外の美化活動	1.共有スペース(廊下)の清掃を月1回実施 ◎実施日:毎月第二月曜日の午前10時～	12回	12回	100.0%	A

《環境委員会》

環境改善計画目標	具体的施策	目標値	実績値	目標達成率 (%)	評価
1「啓発活動 II」 環境イベントの実施 年2回以上	1. 環境委員会にて計画・ 実施 各拠点での清掃活動	年2回以上	2回	100.0%	A

4. 環境関連法規の順守状況及び訴訟・苦情等の有無

当社の事業活動に係る環境関連法規制等については、毎年度対象となる法規制等の調査を実施すると共に順守状況の確認と定められた届出・報告を実施いたしました。

また、関係する機関や関係者からの訴訟はありませんでした。

以上